

代表質問

“子どもが安心”して暮らせるまちづくりを



公明党議員団
塩塚 敏郎 議員

市長の政治姿勢

問 令和2年7月豪雨と昨年8月の大雨の災害復旧工事の状況について問う。

答 復旧状況は、令和2年7月豪雨による農地・農業用施設は87件中65件、公共土木施設は121件中105件が完成。令和3年の大雨による農業用施設は12件中1件、公共土木施設は28件中6件が完成。本年度中の復旧に向け工事を進める。

問 本市の出生数、人口動態と子育て支援について問う。

答 本市の出生数は、令和2年682人、令和3年563人。人口は減少が続いているものの、減少幅は縮小している。子育て支援については、子ども・子育て応援プロジェクトを掲げ、結婚・妊娠・出産・子育てに係る切れ目のない支援に取り組んでいる。

再発言 女性の就労環境整備に加え、コロナ禍の影響を受ける子供たちへ支援を。

新型コロナウイルス感染症対策と生活支援について

問 新型コロナウイルス感染

症対策とワクチン接種状況について問う。

答 感染症対策の徹底をお願いするとともに、ワクチン接種について、効果や副反応のリスクなどを理解された上で、接種の判断をお願いしている。

ワクチンの3回目接種終了の方は、令和4年6月14日時点で6万7,684人。

問 物価高騰に対する生活支援策について問う。

答 生活支援のため、4億8千万円余りの補正予算を計上しており、財源には国からの臨時交付金等の活用を予定。具体策としては、低所得の子育て世帯等への給付金及び食材料費高騰に伴う給食費の保護者負担の軽減等を行う。

教育行政と環境整備

問 学校における複式学級編制の回避と、学校活性化への今後の取組について問う。

答 児童生徒数の推計などから、令和5年度には複式学級の発生が見込まれるため、検討委員会を設置し、小学校の再編に丁寧に取り組みたい。

再発言 保護者や地域の理解を得ながら推進されたい。

問 熱中症対策としての小中学校へのウオータークーラー設置について問う。

答 中学校には部活動がある

ことから、PTAにより設置されている。熱中症対策として教室等にエアコンを整備しているが、小中学校とも各自水筒を持参し、室内の学習でも状況に応じて水分補給の時間を設ける配慮をしている。

再発言 熱中症は命を落とすこともある。熱中症予防には、口にする水の温度も重要。熱中症予防効果の高い、マイボトルにも給水できるウオータークーラーの設置を。

問 (仮称) 子ども・子育て応援条例の制定について、その目的を問う。

答 子育て世代に魅力的なまちづくりを行政、関係機関、市民及び地域が一体となって推進し、将来にわたって継続するため、条例を制定する。



公園で遊ぶ親子

問 3歳児健診の視覚検査で、弱視の早期発見につながる屈折検査の必要性について問う。

答 委託医療機関によっては、既に屈折検査機器を導入し、検査を実施されている。視覚検査に限らず、精密検査が必要となった場合、専門の医療機関を紹介し、疾病の早期発見、早期治療につながるよう取り組んでいる。

再発言 子供の弱視を早期に発見できる環境整備を。